



西郷南洲翁揮毫

## ご挨拶

理事長 吉永龍陽  
会長 吉永龍奏

明けましておめでとうございます。旧年中のご芳情ご支援に深く感謝申し上げます。

輝かしい新年を迎え、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げますと共に何卒宜しくお願い申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により各行事が中止と成り、例年通りの活動はできず、真に残念でなりません。

今年は一刻も早く収束するようお願いです。会員の皆様には健康を第一に考え、新しい生活様式を守り、コロナに罹らぬよう、お努めくださいます。

また、昨年十一月の当会理事会にて今後の活動等について論議をもち、春季温習会を本年五月三日、野方区民ホールに於いて開催することを決定いたしました。感染予防の観点を十分に配慮致し、無観客にて、開催致します。各々、向上を目標に掲げ、充分にお備えくださいませ。皆様の活躍をご期待申し上げます。

まだ先の見えぬ状況が続いております。皆々様お体をご自愛ください。良い年に成ります様お祈り申し上げます。

## 皆様と共に作る

### 会報「敬天愛人」とホームページ

広報局

詩吟界には逆風が吹いています。大会も中止を余儀なくされ、稽古といえ、詩吟には似つかわしくないマスク・フェイスシールドなどをつけた珍妙な格好です。思い切った発声はできず、皆様の鬱憤もさぞやと想像します。

コロナ禍の中、希薄になりがちな絆を深め、会のブランドを維持するためにも、皆様のさまざまな思い、悩み、ご意見等を自由に闊達に会報「敬天愛人」・ホームページにお寄せ頂けませんか。本部からの一方的なお願ひではなく、皆様の忌憚のない多彩な情報は会に活力を与え、これはまたファンの増加に繋がるものと考えます。どしどしご投稿下さい。随時受け付けます。

話題 詩吟がらみ・ボランテイア・趣味・自慢・旅行記・

その他、何でも結構です。

原稿 200字〜800字 手書きorワード文書、写真もあれば可。  
画像 説明文書の添付。動画は重いのでメールではなく

DVD・USBメモリー・SDカード等でお願ひします。

提出先 広報局手塚憲祥宛 メールは [sora6114@ybb.ne.jp](mailto:sora6114@ybb.ne.jp)

会報  
発行日  
編集人  
発行人  
発行所  
団体名

「敬天愛人」第五十三号  
令和三年一月十五日  
南洲吟道会 広報局局長 手塚憲祥  
理事長 吉永龍陽・会長 吉永龍奏  
〒一六五〇〇三五 東京都中野区白鷺二一三四一五  
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会  
電話・FAX 〇三一二三三三〇一七〇〇九

**本部だより** (令和二年九月以降)

☆令和二年度秋季昇段審査

指導局

十月十八日(日)に昇段審査会を開催予定でしたが、コロナの感染拡大の為、開催出来ませんでした。今回は指導者の推薦を以って合格と致しました。結果は以下の通りです。

【秋季昇段者名簿】

二段	中川晋吟	二段	長島勝吟	初伝	秋山政洲
三段	澤口三洲	四段	牧野小洲	四段	新妻眞洲
六段	大滝和水	師範	北原義城	師範	吉沢強祥
正師範	下津浦誠祥	師範	北原順祥	教授	雲瀬収龍
十段	吉沢麗龍	十段	萩野進龍		

以上十四名の方が合格です。おめでとう御座います。益々のご活躍を  
お願い致します

☆本会理事会 十一月二十二日(日) 白鷺高齢者会館

総務局

理事長以下出席者十名、欠席者委任状七名。十三時三十分より、  
議長・吉永理事長、司会・長友総務局長にて開催しました。

令和三年春季温習会について

会場候補は中野芸能小劇場と野方区民ホール。会場の広さ等、  
感染対策が取りやすいとのことにより、野方区民ホールに決定。  
五月三日(祝)午後から、CD伴奏にて開催予定です。

令和三年春季昇段審査について

今年は春、秋とも指導者の推薦でしたが、次回の春は会場での  
審査を実施予定です。

日本吟道学院「創立四十年のあゆみ」における本会記述の  
欠落について

84ページ下段の月日欄及び各公認団体関係欄に2・9南洲吟道  
会創立四十周年記念大会の記載が欠落していますので、該当個所  
に各自ご記入下さい。

会報「敬天愛人」及びHPの役  
割と充実について

詩吟界の現状を鑑み、会の結  
束を図るにはどうしたら良いか  
という観点から、広報局より提  
案がありました。当会報の1ペ  
ージ下段にその詳細を掲載して  
います。その他の広報局からの  
提案は以下の通り。会員構成を  
みても女性が圧倒的に多いの  
で、広報局に女性の視点が必要  
である。執筆者が次報の執筆者  
を指名するというリレー随筆と  
いう方法はどうか。

☆吉永鶴奏琵琶の會「時分の花」十二月十二日(土)

青山鎮仙会

☆令和三年行事予定

- ・春季昇段審査会 四月十八日(日) 予定 白鷺高齢者会館
- ・南洲吟道会春季吟道温習会 五月三日(祝) 午後 野方区民ホール
- ・吉永鶴奏琵琶の會「時分の花」十二月十九日(日) 青山鎮仙会

総本部だより

☆令和三年行事予定

- ・新春賀詞交換会(オンライン) 一月九日(土) 日本吟道会館
- ・五行歌吟詠集制作記念発表会 三月十二日(金) 午後 タワーホール船堀
- ・中止 申本吟道青少年大会&壮心の集い 三月二十八日(申)
- ・夏季大学 八月二十三日(月)・二十四日(火) タワーホール船堀
- ・日本吟道全国大会&日本吟道名吟大会 十一月十九日(金)

江戸川区総合文化センター



## 教場だより

### 龍陽第一教場の今・昔

#### 龍陽会第一 湊山龍牙

私にとっての龍陽第一教場の歴史は、今を遡ること二十六年、平成六年十二月がスタートでした。教場は錚々たる諸先輩の集まりで、活気に溢れ、入会した私をことさら歓迎するでも無く、疎んじるでも無く「さて、この人はどんな吟をするのだろうか・・・」と言った感じで、自然に受け入れてくれました。只、先輩後輩のけじめは暗黙のうちにはつきりとしていて「要注意」と感じたものです。私は「静風流」から転入でしたが、既にお二人の友人が同じ静風流から転入し、在籍して居られましたのですぐに馴染むことが出来、心強く感じたものです。



平成 23 年 1 月 龍陽第一教場

教場の雰囲気は個性的な方が多く、メンバーの変化も殆ど無く、熱心でした。誰かが、コンクールや個人で舞台に出演すること等があると一緒になつて選曲したり、アドバイスしたり、と協力的であり、とても微笑ましいことでした。私としては、そのような点が教場を休むこと無く続けてこられたのだと思つていきます。そして何よりも大きな力は龍陽先生のご指導とお人柄であることとは言うまでもありません。

又、地方で開催される全国大会には、必ず洲神先生もご一緒され、大会の後には全体の打ち上げが有り、

余興にも参加し、終われば南洲吟道会だけの二次会が開かれました。翌日は開催地の観光をし、とても充実した研修の旅となりました。思い出は尽きません。今もなお、亡き先輩の方々の事を昨日の事のように思い出し話題にものぼります。

南洲吟道会と共に二十六年、静風流から数えれば三十数年、吟と共に参りました。今は、思いもかけぬコロナ禍にあつて、私もすっかり歳を重ねましたし、教場も様変わりしてしまいました。体調を崩された方も多くなりましたのでとても容易なことでは無いと実感しておりますが、一日も早く以前の状態に戻れることを願つて支え合つて行きたいと思ひます。そして何よりも今ここに、現在の龍陽第一教場の状況を語れないことを寂しく思い、残念でなりません。元気でもとの生活に戻ることが出来る日まで何方様もどうぞお健やかに過ごしてくださいように。

令和二年十一月十六日

#### 「詩吟三田教場」草創期の思い出

##### 詩吟三田教場 戸田進龍

「詩吟三田教場」のルーツは、「三菱自動車吟道部」にあります。三十七年前に吉永洲神先生（以下先生と呼称）を指導者に戴いて一民間会社の文化活動の一環として始めました。



平成 11 年全国大会余興



ある年の三田教場吟行会於熱海

創設者は池田成順・奈須野義清・橋本清さまの三名の方々が、創設されました。教場長は鈴木正衛さんでした。会社の池田さんは戦前の陸軍士官学校出身、橋本さんは広島幼年学校・防衛庁出身、先生は陸軍広島幼年学校（陸軍将校を約束された難関校）に在校し、後に防衛庁にご在職、その関係の中から誕生したのではないかと推測しております。教場のある三田は薩摩藩邸跡で、「江戸無血開城」を約した「西郷南洲・勝海舟会見の地」なる碑があり、先生は格別な奇縁を感じられたことと思います。私は創部半年後の入部です。歌舞音曲の類が苦手な私の入部の動機や今日迄継続している訳は、以前会報に記しましたので省略します。発足当初、部員は十数名、先生のご指導は力強く、熱心、かつ明るい空気に満ちておりました。稽古は先生の「敬天愛人」の迫力ある独吟から始まります。生徒達の吟のレベルは総じて低く、「やってみせ、言ってみせ、聞かせて、させてみせ、誉めてやらねば人は育たじ」を地でゆくようなご指導で、心寛く、根気よく、

誉め上手、時に厳しく、詩人や歴史余話を交えて、お陰で出来の悪い生徒も何とか付いていけました。教場のもう一つの魅力は「第二教場」の存在です。先生の「そろそろ第二教場に行くか」の一声で、同じフロアの居酒屋（社員食堂）へ直行します。先生がよく言われた「皆さんと私は同志である」の言葉に甘えて、同じ立ち位置で、但し敬意は忘れず、世情万般の勝手な議論をさせて頂きました。至誠一貫、純粋な先生の人生観から多くを学びました。吟行会、初吟会、納吟会等々、教場外の行事も多く、他教場の皆様との交流もあり、楽しかった思い出が蘇ります。

その後、当教場は二度教場名を変えて現在に至っております。先生亡き後、吉永龍暘先生、龍奏先生へのご指導を引き継いで頂き、故佐藤龍廣先生のご尽力もあって、新しい仲間も加わりました。厳しいコロナ禍ではありますが、先生の「吟道に定年なし」、「生来の音痴はいない」を信じて、吟の道の端を歩いていきたいと思っております。

### 会員だより

#### 偶然出会った詩吟と私

国分寺会 杉本陽祥

友達と雑談している時、私が高校時代に漢文が好きで「李白や杜甫の漢詩に興味がある。」と言ったらしく、それを仲間の一人が覚えていて、ある日、突然に電話で「今すぐ家に来て、連れて行くところがある。」というのです。それが今の私の先生の平松宅でした。日記を見ると、平成十六年二月十三日でした。先生と二人の先輩がいて、もう五年もしているとのこと。一週間後の二十日の日記には詩吟はとっても楽しいと書いている。それから十七年。友のおせっかいに、その時は少し腹も立ったが、お陰で詩吟に出会えたとは今ではとっても感謝、感謝です。

入会した年の五月に三十周年記念大会が中野サンプラザであり、入って間もない私に先生が特訓して下さり、「偶感」と「人生の並木路」を吟じました。その日の日記に「無事終わった。着物の人が多く、踊りあり、剣舞あり、独吟あり、私の知らないこんな世界もあるんだ！」と書いてあった。

私は音感もなく、不器用で「七のまわし」を習得するまで、どれだけの時間のかかったことか。いまだに時々注意されています。家で、何度も、何度も練習して「今日こそは完璧だ。」と思っただけで「違う、違う。」と何度、先生に言われたことか・・・。こんなこともありました。「教え方が悪いんじゃない？」勿論、冗談でしたが、失礼極まりない弟子でした（反省です）。それも、こんなことが自由に言い合える雰囲気、とても楽しい教室だからです。先生も仲間も大好きです。詩吟を始めて三年目位の時、山形の鶴岡市で偶然に入った致道博物館に「敬天愛人」の書があり、驚いたことが思い出されます。詩吟をしていなければ、ただ通り過ぎただけでしょう。

さて、今の私の吟はどうでしょうか、少しは上達したでしょうかと自問自答しています。早くコロナが収束して、マスクなしで、大声で「敬天愛人」を合吟したいと願っています。

## 吟道との出会い

鷺宮教場 稲葉龍誠

はじめに、私は若年より今日に到るまで空手道（五段）を学んでおります。その余暇、書も学んでおり、知人である南洲吟道会所属の古川綾子さんより、あなたは空手で大きな声を出しているの、五年間は止めない約束で詩吟をやってみないかと誘いをうけ、入門することに決めました。（平成九年一月三日）

洲神先生自ら阿佐ヶ谷駅まで迎えてくれ、教場に案内していただきまし

た。今、平松龍宝先生、現役で活躍中です。  
尋牛。「たずねゆく深山の牛は見えずして、ただうつせみの声のみぞする。」

初吟。服部南郭「夜墨水を下る」を教えていただき、高低の差をずいぶん注意されたことを覚えております。

吟歴二十三年。「日々是好日。」全国大会、名吟大会、夏季吟道大学、及び各大会に参加させていただき、感謝、感謝。（詳細省略）

牧牛。「日数へて、野飼の牛も手なるれば、身にそふ影となるぞうれしき。」の段階に来ていると思います。

最後に、先に洲神先生より西郷南洲翁遺訓「敬天愛人」をお教えいただいております、NHK大河ドラマに放映されて嬉しいと思います。

## 編集後記

あけましておめでとうございます。日頃は会報の発刊にご協力いただき、衷心より御礼申し上げます。

昨年末からの新型コロナウイルス第3波は猛威を振り、更なる感染予防の一手が必要となってきました。我々に出来ることは、今一度初心に戻り、3密を避けたニューノーマルを愚直に実践することです。

詩吟界も逆境の只中にあります。当会もご多聞に漏れません。ふれあかも減りました。交流の場に、また会の結束に、会報がお役に立てればと思います。

辛丑（かのとうし）は転換の年だと言われています。苦労のあとには楽しみがあります。皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

（広報局）

広報局長 手塚憲祥 記録部長 稲葉龍誠  
広報部長 萩野進龍 編集部長 曾根龍富  
HP担当 菊地務